

## 北海道札幌琴似工業高等学校

課程 定時制  
学科 工業科  
生徒数 164名

### 1 事業のねらい

生徒が多様化する中、定時制課程には様々な課題を抱えた生徒が在籍している。中学校時代から不登校傾向の生徒など特別な支援を要する生徒もいる。また、心の不安定さから他人とのコミュニケーションを上手とすることができず、絶えず教員や他の生徒とトラブルを起こす生徒も少なくない。

このような状況を改善するため、生徒のコミュニケーションスキルの向上やよりよい学級集団づくりのために、予防的・開発的教育相談により生徒への支援を実施し、学校生活不適応の解消を図るとともに、卒業後も社会に通用するコミュニケーションスキルを有する生徒の育成に努める。

### 2 取組の経過

7月・ステップアップ事業打ち合わせ

1月・校内研修会並びにカルテづくりの打ち合わせ

1月・エゴグラム(カルテづくり)の実施  
・校内研修会

1月・アサーションビデオ作成の打ち合わせ

2月・エゴグラムに基づくカウンセリング  
・エンカウンターエクササイズ並びにピア・サポートの実施

・アサーションビデオの制作

3月・アサーションビデオの制作

<組織図>

特別支援委員会

・教頭 ・教務部長 ・生徒指導部長  
・養護教諭・当該学科長・当該担任

映画制作(アサーションビデオ制作)  
実行委員会

本校生徒、北海道医療大学生

### 3 主な取組の内容

1 カルテづくり

全校生徒を対象にエゴグラムを実施し、交流分析並びに主張性尺度に基づくカルテを作成する。

2 校内研修会

生徒のコミュニケーションスキルの向上を目指して、キャリア教育の推進と進路指導の充実を図る研修会を開催する。

### 3) アサーションビデオの作成

広く全校生徒に呼びかけて、アサーションビデオの制作に取り組んだ。ビデオ制作の過程で、北海道医療大学生とともに、エンカウンターエクササイズ並びにピア・サポートを実施する。



エクササイズ①(人間知恵の輪)



エクササイズ②(教集めと自己紹介)



演技者読み合わせ



撮影係・照明係打ち合わせ

### 4 成果と課題

○ 成果

- ・カルテづくりにより、本校生の主張性尺度や抑鬱傾向、性格特徴を知ることができ、今後の進路指導や生徒指導の資料が得られた。
- ・校内研修会の定期開催により、生徒理解の深化を図ることができた。
- ・アサーションビデオ制作の過程で、自己理解や他者理解などコミュニケーションスキルの育成と向上を図ることができた。1～3年生30名と、多数の生徒が参加し、プログラムに対して肯定的にかかわろうとする生徒が多い。
- ・北海道医療大学生の協力を得ながら実施した構成的グループエンカウンターやピア・サポートの成果として、生徒に学年を超えた仲間意識が芽生えるのが観察されたほか、自己理解や他者理解、感情のコントロールなどに良い変化が見られた。
- ・1年生の中途退学者が、本プログラム実施前の平成21年度に比べ、平成22年度は3割以上減少した。

○ 課題

- ・制作したアサーショントレーニングのビデオ教材を活用

○ 次年度に向けて

- ・4月当初から、今年度作成したビデオ教材を活用し、コミュニケーションスキルの向上を目指した授業を計画的に実施することにより、より良い人間関係づくりを進めていきたい。
- ・北海道医療大学生の協力によるピア・トレーニングを継続し、本校生徒同士のピア・サポートの充実を図りたい。